

## 函館開発建設部 函館道路事務所

# 「函館新道」と「函館江差自動車道」 2つの高規格幹線道路が道南の活性化を支援



左から山本孝彦第3工事課長、徳山利信第1工事課長、  
嘉藤克行第2工事課長、花田雄策維持課長



昭和47年5月に誕生した函館道路事務所は、1市6町1村にわたる一般国道5号などの改修、維持管理を行うとともに、函館新道や函館江差自動車道の事業にもたずさわっています。

今回は、函館新道の建設と利用状況について徳山利信第1工事課長から、また函館新道で行われている緑化工事について嘉藤克行第2工事課長から、さらに現在進行中の函館江差自動車道のお話を山本孝彦第3工事課長からうかがい、維持管理を担当する花田雄策維持課長からは意外なエピソードが飛び出しました。

### 目的は国道5号の渋滞を緩和し、 貴重な「赤松街道」を守る

歴史的建造物が建ち並び異国情緒を漂わせる函館市は、横浜や長崎と同様に、日本で初めて貿易港を開いた港街です。古くは箱館奉行が置かれ江戸幕府とのつながりも強く、また高田屋嘉兵衛のような商人も活躍。明治以降は本州と北海道の連絡の要として、また北洋漁業の拠点として栄えてきました。現在も道南の経済、交通、観光などの拠点として重要な役割を果たしています。

道南圏と道央圏を結ぶ国道5号は函館市や地域の発展に大きく寄与してきた幹線で、北海道で最

初に整備された国道です。古くから産業道路としても利用されてきました。しかし、近年は交通量の増加による交通渋滞が発生し、基幹道路としての機能を十分に果たし切れていないのが実情でした。また、函館市桔梗町から七飯町峠下間の国道5号沿線には、全国的にも有名な「赤松街道」があります。その長さは約14Kmにも及び、樹齢100年を越える赤松が約1400本ズラリと並ぶ姿は壮観。ただし、自動車の排気ガスや車輻の接触などによる損傷も著しく、「赤松を守ろう」という運動が起こるようになりました。

こうした状況を背景に、国道5号のバイパスとして「自動車専用道路」が平成13年3月24日に全線暫定供用を開始し、そのことで、国道5号の交通渋滞の緩和や赤松街道保全のほかにも、急速に進む都市化現象への備えとして、また交通分散を図り環境を改善することや、函館圏の生活領域の拡大などの目的を果たすと注目を集めています。現在は1日平均約2万台が利用し、「とても走りやすい」という声も多く聞かれるそうです。

### 工事のエピソードは尽きない、 軟弱地盤で盛り土が4mも沈むとは

もちろん供用までにはいろいろご苦労もあったよう

で、工事を担当した徳山利信第1工事課長は「最終年度は、厳しい工程の中で“必ず供用日までに間に合わせなければならない”というプレッシャーがありましたね笑)。おかげ様で天候にも恵まれ工事も順調に進み、供用開始後は地元の反応も良いので、ホッとひと安心というところでしょうか」と、おだやかな表情で話します。

函館新道は、大規模な緑化工事が行われているのも特徴で、函館新道緑化計画検討委員会が設けられ随分と内容も練られたようです。基本的には林野の植樹とあって強い木は生き残り、弱いものは淘汰されていく、そんな自然のサイクルにも似た植栽が施されています。さらに、札幌寄りの入り口には国道5号の赤松並木をイメージした植栽を行い、地域性を出すようにしました。樹木が中心で、コンクリートの壁面にはツル性の植物を植えて美観に配慮しています。

「極力手間をかけない、メンテナンスフリーの緑化を目指しました。他工事で木を伐採しますが、それをチップ材にして樹木のまわりに敷いています。そうすると資源が有効に使えるだけでなく、草が生えてこないことで下草刈りの心配もありませんし、数年たつと有機質肥料となって土壤中に還元されます。」と担当の嘉藤克行第2工事課長が説明します。こうした取り組みは、今後の道路事業にとって参考になることは間違いありません。

さらに、来年の供用を目指し、工事が急ピッチで進められているのが「函館江差自動車道」で、これも同事務所の管轄です。これは函館市から上磯町、木古内町へ向かう高規格幹線道路で現在函館ICから上磯IC(仮称)までの約8について平成14年度の暫定供用を目標に整備を進めています。

今後、さらに上磯ICから木古内IC(仮称)までつながれば、総延長が約34となり、周辺の利便性が飛躍的に向上することが期待されます。

供用までのカウントダウンが始まり、多忙な毎日をござされている山本孝彦第3工事課長は、「函館ICから2.5くらい行ったところに、相当の軟弱地盤がありましてね。8mの盛り土をしようとする、4m以上、沈むんで

すよ。このため、都合、12m分の土を盛らないと、8mの高さは作れないんですよ。」と苦笑い。安全な道路を作る裏には、本当に目に見えない、頭を悩ませる問題がついてまわるようです。

## トラクターが走り、おばあさんが歩く 新道への理解をもっと深めていきたい

こうして道路が整備され高速ネットワークが広がることで、地域に様々なメリットをもたらします。まず第1のメリットとして産業の発展に貢献することがあげられ、農水産物を消費地へ届けるまでの輸送時間を大幅に短縮することができます。函館市のイカ、知内町のニラ、戸井町や松前町のマグロなど鮮度の良さが命ともいえる生鮮品を運ぶためにも、道路の整備は必要不可欠。都市部に医療施設が集中している現状での救急搬送時間の短縮化や、災害時の代替ルート確保、道南観光周遊ルートの充実と拡大、道南圏域内の市町村の連携にも役立ちます。

もちろん、いつも安全で快適に車が走行できるよう維持管理にも力を入れていて、函館新道は職員や委託業者により1日6回パトロールを行い、道路の隅々まで目を光らせています。地域がら雪の心配はさほどありませんが、その代わりブラックアイスバーン対策をしっかりと行わなければなりません。

さてパトロールをしたり、CCTVカメラで道路の様子をチェックすると意外な発見物があるようです。現在、無料で利用できるため入るのも自由……。

「自動車専用道路にもかかわらず自転車やトラクターが走っていたり、ある時はおばあさんが歩いていたり。その時はスグにパトカーが出勤し、おばあさんを保護しました。花火大会の時は車を停めて見る人も。どういう種類の道路であるかということをもっとPRする必要がありますね」と、花田雄策維持課長はこれからの課題について検討しています。

ちなみに入り口のところには日本道路公団の高速道路と同様に緑色の標識が掲げられているので、本州から来るドライバーの中には「お金がかかるのでは」と思うのか、あえて利用しない人もいるそうです。

4人の課長に函館の印象をうかがうと「気候が温暖で、食べ物がおいしく暮らしやすい」と口をそろえます。また、職場の雰囲気は「所長室の壁は無いのも同然のオープンな作りで、職員と所長が身近な関係にありコミュニケーションがよく図られています」と言います。夏は職員みんなで函館山の近くのビアガーデンへ出掛けて行き、ワイワイ楽しく飲コミュニケーション。こうして結束を強めているそうです。

北の交差点

